

清春、2026 年全国ツアー『余る程に樂園』開幕！ 黒夢のメジャーデビュー33 周年の記念日に放つ、3 時間を超える熱演

ソロ初期の名曲から THE HARMONIES の登場まで、恵比寿 LIQUIDROOM での初日公演をレポート

1994 年のデビュー以来、独自の美学と楽曲、メッセージ性で日本のロックシーンを牽引し、今なおカリスマとして絶大な支持を集めるミュージシャン「清春」のマネジメントを行う株式会社 HEEK は、アーティスト・清春が 2026 年 2 月 9 日（月）に恵比寿 LIQUIDROOM にて開催した、全国ツアー『余る程に樂園』の初日公演の模様をレポートいたします。



■ 清春 2026 年ツアー『余る程に樂園』 開催概要

デビュー30 周年記念での黒夢再始動と並行し、昨年から今年にかけては約 100 公演という驚異的なスケジュールでツアーを敢行している清春が、2026 年の新たな幕開けとしてツアー『余る程に樂園』を開催。全国各地を巡る全 18 公演をスタートさせました。

■ 開幕公演ライブレポート

清春が 2026 年 2 月 9 日、東京・恵比寿 LIQUIDROOM にて、〈TOUR 天使ノ詩 2026「余る程に樂園」〉と題したツアー初日を鮮やかに飾った。この日は 1994 年 2 月 9 日に黒夢がメジャー・デビューしてから 33 回目の記念日にあたる。清春とファンの双方にとって特別な日であり、新たなツアーの幕開けというわけだ。平日、しかも月曜の夜にもかかわらず、場内には熱烈な観客がひしめき合い、開演前から心躍るムードに包まれている。

定刻の午後 7 時を 30 分ほど過ぎた頃に、フロアが暗転すると、たっぷり焦らされたオーディエンスに安堵の表情が浮かぶ。ライブに浸る体勢は万全だ。通例であれば、ここへ大音量で SE が流れるところだが、今宵はまず、無音の空間に加藤エレナ (Pf/Key/Cho)と SATOKO(Dr)が登場。この 2 人がセッション風に音を奏で始めると、ロックスターの色気をまとった清春がス

ステージ中央へと歩み出る。1 曲目は観る者を優しく深い地点へと誘う「2 月」だ。この曲でいきなりオーディエンスの感情をひとつに束ねたところへ、大橋英之(G)と栗原健(Sax)が合流。続いて披露されたのはグラマラスな輝きを放つ「GROOVER」だった。近年お馴染みとなっている 4 人のサポート陣の強力な技。それをしなやかに支配するカリスマの身のこなしが眩しい。



青春は先頃、〈TOUR 2025 LOCAL APPLAUSE PART 2〉という、久々に訪れる地方での公演を軸としたツアーを終えたばかりである。したがって、さほど間隔を空けずに開幕となった本ツアーの趣向は、これから各会場に訪れるファンも気になるところだろう。ツアー初日ゆえ、ライブの流れを詳細に追うことは控えるが、ひとつ言えるのは、久しく披露されていなかった曲がいくつも飛び出し、その楽曲の持つ魅力をふんだんに味わえたことだ。情緒豊かにオーディエンスを包み込んだかと思えば、次の瞬間には、妖しくゴージャスな空間を作り出す。そんな劇的な場面を自在に操る青春の技量には、ますます磨きがかかっているように思えた。



この日はデビュー日ということもあり、『poetry』(2004 年)や『MELLOW』(2005 年)といった彼のソロ・キャリア初期の楽曲が多く披露されていた。たとえば、本編中盤、「MESSIAH」から「光」へと繋いだ時間帯など、青春の神々しい姿に吸い込まれるかのような観客たちが印象的だった。各地で流動的に変化していくであろうセットリストの行方も本ツアーの見どころのひとつと

言える。

「COME HOME」で本編を熱狂的に締め括ると、アンコールに応じて登場したのは、THE HARMONIES の面々だ。枕風 (Vo)、サーベル・ミケ・健(Sax)、不知火・キャプテン・エレナ(Pf/Vo)から成るこのトリオは、2024 年の青春ツアーのアンコール・ステージに出現した新人バンド。巧みな演奏と話術で日本歌謡史の名曲をカバーする彼らが今夜選んだのは、ジュディ・オングの「魅せられて」だ。原曲の持つ華やかさと哀愁を存分に調理したこの場面もまた、青春のデビュー日を彩るハイライトとなった。THE HARMONIES はますますファンに愛される存在になるだろうと確信した。

彼らと入れ替わるように、青春たちがステージに再び現れる。アンコールでは、当初の予定になかった SADS の「楽園」をアコースティック・ギターの弾き語りで披露するなど、オーディエンスとの愛おしい時間を楽しむ青春。定番の「EMILY」と「HAPPY」が鮮やかに着地を決めた頃、時計の針は午後 10 時 45 分を指していた。終わってみれば、ゆうに 3 時間を超えるライブ。デビュー日である 2 月 9 日の祝祭感と同時に、普段通りの底知れなさを感じさせる熱演だった。青春とファンが互いに祝福し合うかのような光景が心に残る一夜となった。



ステージの去り際に青春が放った言葉が今も頭から離れない。「ツアー初日、ありがとう！日本で一番素晴らしいツアーにしようと思います。僕らと皆さんがいれば、日本で一番崇高なツアーになります」

この新たな旅は 6 月 14 日の東京・Zepp Shinjuku まで続く。素晴らしい旅が始まると明言できる、濃密なツアー初日だった。



■今後のツアースケジュール

全国ツアー『余る程に樂園』は全国各地を巡り、6月14日（日）の東京・Zepp Shinjuku 公演でフィナーレを迎えます。従来のファンはもちろん、初めて清春のライブに触れる方にとっても、その想像力と表現力を存分に体感できる絶好の機会です。清春ならではの濃密なステージを、ぜひ会場で実際にご体感ください。

02/28 新宿 THEATER MILANO-Za
03/01 新宿 THEATER MILANO-Za
03/28 滋賀 U★STONE
03/29 滋賀 U★STONE
04/05 Zepp Shinjuku (TOKYO)
04/11 広島 LIVE VANQUISH
04/12 米子 AZTiC laughs
04/24 名古屋 BOTTOMLINE
04/25 浜松 Live House 窓枠
05/04 金沢 EIGHTHALL
05/14 SUPERNOVA KAWASAKI
05/15 SUPERNOVA KAWASAKI
05/29 名古屋 Electric Lady Land
05/30 名古屋 Electric Lady Land
06/06 神戸 Harbor Studio
06/07 大阪 GORILLA HALL
06/14 Zepp Shinjuku (TOKYO)

■チケット情報

ローソンチケットにて販売中

・受付 URL : <https://l-tike.com/concert/mevent/?mid=375932>

※お支払い方法やチケット引き取り方法は受付ページにてご確認ください。

※一部、既に販売を終了している公演がございます。最新の状況は受付ページをご確認ください。

■清春



1994年にロックバンド「黒夢」のボーカリストとしてメジャーデビューし、独自のビジュアルと音楽性で90年代の音楽シーンを席巻。1999年には「SADS」を結成、ドラマ主題歌『忘却の空』が大ヒットを記録するなど、時代を象徴する数々の金字塔を打ち立てる。2003年からはソロ活動を本格化。デビュー30周年を超えた現在も、年間を通じた精力的なライブ活動を行い、その圧倒的なパフォーマンスと歌声は進化を止めない。ビジネス面では、自身のアパレルブランドのディレクションや空間プロデュースなどに携わった経歴もあり、独自の美学を貫くファッションリーダーとしても絶大な支持を誇る。2026年、

YouTubeチャンネル開設や異業種コラボなど、ロックミュージシャンの枠を超えた新たな表現領域を開拓し続けている。

・清春公式サイト「KIYOHARU」 : <https://kiyoharu.tokyo/>

■会社概要

- ・会社名：株式会社 HEEK
- ・代表者：代表取締役 下大園 豊
- ・所在地：東京都新宿区新宿 2 丁目 2 - 4 - 4 A
- ・事業内容：音楽制作、アーティストマネジメント、コンサート制作